

GREEN RADER



令和7年度スタートにあたって

A-Policy【重点事業方針】

令和6年度 施設住宅課の取組み

A-Reports

- | | |
|--|------------------------------|
| ・令和6年度 きのこ販売促進の取組みについて 02 | ・令和7年度 機構・分掌・要員について 08 |
| ・花きの商談会「信州フラワートレードフェア」を東京・大阪で開催 ... 05 | ・令和7年度 全農長野県本部機構図 09 |
| ・広報CMが完成 05 | |
| ・JAタウン「全農長野 僕らはおいしい応援団」出店者会議を開催 06 | ・JA全農長野の事業現況 10 |
| ・長野駅デジタルサイネージでインバウンド向けに長野米PR 07 | ・今月のおすすめレシピ 10 |
| ・厚生連に福祉車両を寄贈 07 | ・4月のラジオ番組表 10 |
| | ・編集後記 10 |



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

令和7年度スタートにあたって

全農長野県本部 県本部長 長谷川 孝治

花々の便りが届く季節となり、春の訪れとともに農作業が本格化するなか、長野県本部の令和7年度事業がスタートしました。

私たち職員一同、新たな気持ちで総合経済事業を通じ、組合員・JAの負託に応え、営農と生活向上への貢献と、JA営農経済事業発展に取り組んで参ります。

さて、長野県本部の令和6年度決算は、供給販売高で計画比103%となる2,774億円を見込んでおります。

昨年は局地的な豪雨や降雹の発生、夏季の高温は、様々な品目に影響を及ぼしました。また12月・2月・3月の降雪によりぶどう棚やパイプハウスが倒壊する被害が発生しており今年度の作付けや生育への影響が心配されます。

一方、ロシア・ウクライナ情勢
イスラエル・パレスチナ情勢など

紛争の長期化により、大幅な円安、原油価格の高騰、世界的にもインフレが進行し、生産に必要な肥料・燃料は高止まり傾向となり、農畜産物の営農環境は厳しいままとなつていきます。

6月から施行されました改正「食料・農業・農村基本法」においては、JAGグループの約2年半にわたる働きかけにより、法律の基本理念に「食料安全保障の確保」が盛り込まれました。今後は生産現場における多くの課題に対処すべく、適正な価格形成の実現、「食料・農業・農村基本計画」の策定や、各施策の具体化に向けて、組織をあげて取り組みをすすめる必要があります。

また、今般の米をめぐる状況につきまして、需給状況などをふまえ、政府による備蓄米の買戻し条件付き販売が実施されることとなりま

した。我々は、多くの消費者の皆様に、国産のお米を召し上がっていただきたいと、「適正な価格形成」のもとでの持続可能な食料生産の実現を目指し、今般の政府備蓄米の応札対応をすすめ、令和7年産米の安定生産に努めなければなりません。

このような大変厳しい事業環境
の中、会員ＪＡの皆様のご協力に
より事業結集ができましたことを
あらためて感謝申し上げます。

さて、本年は「2025～2027JA長野県3カ年計画」
「県本部中期事業計画（令和7～9年度）」のスタートの年となります。
この中では、①持続的な農業生産
基盤づくりによる農業生産量の維
持・拡大、②販売力強化とコスト
低減による農家組合員の手取り最
大化、③JA経済事業の収支改善
と活気ある地域社会づくりを基本

目標としています。

特に販売力強化とコスト低減については、「適正な価格形成」のため、メディア媒体を使用したPR、個別取引先との交渉、「国消国産」の組織的取り組みなどを進めることにより、消費側の理解醸成を進めます。また、物流や資材コスト低減に努め、JA組合員の手取り向上に努めてまいります。その他、3部連携を通じた担い手支援強化や、農業DX化による生産基盤強化にも取り組んでまいります。

長野県本部の令和7年度事業計画供給販売高は、2,700億円といたしました。JAおよび関係機関との連携を一層強化し、職員一同計画実践を図り、会員JAの負託に応えてまいります。会員JAの皆様の一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和7年4月1日

長野県本部長 長谷川 孝治



令和6年度 きのこ販売促進の取組みについて

J A 全農長野営業課きのこチームは

「産地と消費者をつなぐ」をテーマに各取引先と直接商談を行っています。

消費を取り巻く環境が日々変化していく中、長野県産青果物のファンになつてもらふこと、今まで興味のなかった人に関心をもち、興味を持ってもらえるかを常に考え、販売促進活動に取り組んで参りました。令和6年度の活動について報告します。

1. 店頭での試食宣伝

消費者に直接PRできる場として、主力取引先のスーパー・量販店の店頭で試食宣伝会を実施しました。従来の食べ方にとらわれない試食メニューでの食べ方や調味料メーカーとのコラボメニューを提案しました。試食された方からは「この食べ方なら子どもでも食べられる」「こんなおいしい食べ方があったなんて知らなかった」などの感想をいただき、きのこの魅力の再発見につながる機会となりました。

2. もぎとり宣伝会

栽培ビンに生えたきのこをそのまま売り場に陳列し、お客様にその場でもぎ取っていただく宣伝会を実施しました（Ⅱ表紙右上）。産地からの販売応援もいただき、来店されたお客様への鮮度感のアピールとお子さまへの「食育」の観点からも、将来の食を増やす取り組みとなりました。



栽培ビンに生えたきのこを売り場に陳列

3. 取引先を対象とした「産地研修会」

消費者へのPRのみでなく、実際にきのこを取り扱っていただいているバイヤーや店舗担当者を対象に、産地研修会を実施しました。関係J A・生産者のご協力の下、培養から集出荷までの施設見学により、生産者の生の声や生産実態、きのこがどのようにできるの

かを実際に見て肌で感じていただきました。研修会の様子は会報誌にも掲載され、消費者の皆様へのPRにもなりました。



コープこうべの会報誌

4. 店頭配布パンフレットにコラボレシピを掲載

店頭で配布されているパンフレットにエリアバイヤーや調味料メーカーとタイアップしたレシピを掲載し、新たな需要の創出を図りました。他のきのこメーカーも同様に掲載し、きのこ業界全体で売り場を盛り上げるべく、それぞれ趣向を凝らしたレシピを提案しました。このパンフレットは8月31日の「野菜の日」に合わせて青果売り場

で配布され、秋口に向けてのきのこの需要の高まりと連動した企画となりました。

5. 総合品目でのトラックセール

主力取引先である量販店に対し、野菜・果実・きのこを産地直送で店舗へお届けするトラックセールを実施しました。毎年恒例のトラックセールを楽しみにされているお客様も多く、事前にチラシでの告知も入れていただき、大勢の方に



トラックセールで賑わう売り場

営業課では、今後も長野県産青果物を一人でも多くの消費者に手に取っていただけるようにPRするとともに、それぞれの商品が持つ魅力や価値を商談会や販促活動をとおして発信して参ります。

施設住宅課

令和6年度 施設住宅課の取組み

JA全農長野施設住宅課は、施主代行を基本として一級建築士事務所による専門性を発揮し、事務所などの一般建築から農業施設まで幅広い施設の設計・監理を行っています。また、コンサルタントとして農業施設の高度化・再編への対応並びに組合員ニーズに応える住環境改善事業に取り組んでいます。

■建築

JAあづみ本所及び豊科支所等事務所の新築における設計・工事監理からJA遊休施設の活用としてリノベーション改修等JAの施設建設・改修・整備について、相談から設計・業者選定・発注事務・工事監理に一貫して取り組みました（Ⅱ表紙右下）。

また、JAグループであるJAアグリエール長野あづみ管理棟移転新築についても設計・監理を行いました。

今後も新規物件はもちろん、既存施設の改修等有効活用につながる提案についても積極的に取り組んで参ります。



JAあづみ本所並びに豊科支所建設工事



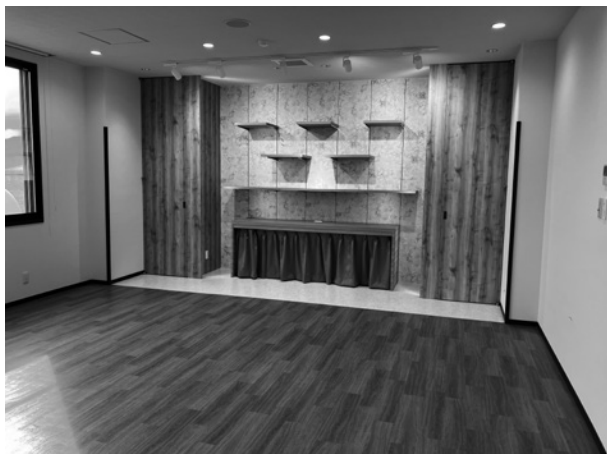
JA長野ハケ岳 川上支所販売事務所建設工事



JAアグリエール長野 管理棟移転新築工事



JAながの ながの営農センター建設工事



JA大北 JAホールまつかわ改修工事



JA信州うへだ 旧古里店改修工事



JA上伊那 アスパラガス集出荷貯蔵施設整備事業

■農業施設
 系統組織として長年培ってきた農業施設のノウハウを活かし、施設の高度化・効率化、環境に配慮した提案を行っています。国の補助事業による選果貯蔵施設や米麦施設等の農業施設建設では計画から建設、プラント設備工事まで一貫して行い、JAと一体となり事業に取り組んでいます。既存施設では集出荷場・冷蔵庫の選果貯蔵施設からカントリーエレベーター・ライスセクターなどの米麦施設まで様々な施設の改修や機器更新により、施設の高度化・効率化に取り組んでいます。



JA信州うへだ 泉田RC色彩選別機設置工事



JAながの 須坂共選所第1施設改修工事

■まとめ
 施設住宅課では「2050年カーボンニュートラル」に向けたエネルギー消費量削減への取り組みを進め、JA・地域組合員の皆様のご要望に沿った施設づくりを続けて参ります。



JA佐久浅間 (株)アメック佐久平浅間小北分譲地 (Ⅲ期) 造成工事

■住宅事業
 JAとの一体事業として、組合員の土地活用を支援しています。また、高齢化に配慮したリフォームや建物保全に係る白蟻防除等の住宅事業にも取り組んでいます。

花きの商談会「信州フラワートレードフェア」を東京・大阪で開催

JA全農長野果実花き課は、2月12日(水)に東京都中央卸売市場大田市場花き棟で、19日(水)に大阪市の(株)なにわ花いちばで、花きの商談会「信州フラワートレードフェア」を開催しました。県内JAと卸売会社・実需者が今年の出荷シーズンに向けた取引について打合せを行うこの商談会は、今回で通算19回目の開催です。

商談会では、定期的な予約相対や出荷集中時・需要期の注文対応、産地フェアなどの取組みの提案のほか、コロナ禍後に変化している需要や売り場の様子、県内産地での生産状況について情報交換を行いました。産地から



東京会場

は、取扱品目の提案と合わせて生産現場のコスト上昇の現状を卸売会社および実需者へ伝えました。これらを受けて、実需者からは、売り場づくりやコストの適切な価格転嫁に向けた取組みを紹介いただきました。

今回の商談会をとおして、全農長野は生産(JA)と消費(卸売会社・実需者)を結び付けて販売していくコーディネートターとして、再生産が可能な適正価格での安定的な花き販売を目指す取組みを継続する重要性を感じました。商談会の内容は今後精査をして、令和7年度の出荷シーズンに向けて取り組んで参ります。



大阪会場

広報CMが完成

JA全農長野が令和6年度、1年間かけて制作してきた広報CMが完成しました。

CMは春篇・夏篇・秋篇・冬篇の4本で、春は野菜種苗センター、夏は高原野菜、秋は果実、冬は八ヶ岳牧場で撮影しました。季節に応じて全農長野の業務・役割をお見せし、農業を支え、新鮮で高品質な農産物を消費地へ届けていることを伝えます。

3月より長野県内のテレビ局4局で放送を開始し、全農長野公式YouTubeチャンネルでも公開しています。



春篇 CM ▶



JAタウン「全農長野 出店者会議を開催」

僕らはおいしい応援団

JA全農長野生活課は2月20日(木)、JA全農の通販サイト「JAタウン」の長野県シヨップ「全農長野」僕らはおいしい応援団」の出店者会議を開き、26名が出席しました。会議では、令和6年度の販売実績や消費者動向、令和7年度の活動方針などを説明しました。

JAタウンには全国から129シヨップが出店しており、「全農長野」僕らはおいしい応援団」シヨップは6店舗増の77件(令和7年1月末時点)になりました。令和6年4月から令和7年1月の取扱金額は2億7,512万円(昨年比116%)、販売数は5万117個(昨年比113%)。例年人気があるサンふじ、シナノスイート、モモ、スイカ、シャインマスカット等の果物のほか、今年の特徴として全国的な米不足によりECサイトへの流入が多く、米力テグリーは11月に前年比528%、1月は782%と大幅に伸びました。さらに国産国産(お客様の送料負担なし) キャンペーンを中心とした各種キャンペーン、商品数の増加、メディア等への露出、定期的なメルマガ配信等が売り上げを伸ばした要因と分析しています。

また、レビュー(購入者コメント)が消費者の購買意思決定に大きく影響することから、事例を紹介しながら「責任票」「食べ方の説明」「保存方法」を入れるなど、低評価に対してすぐに取り組める対応を説明しました。令和7年度は、くらし支援部くらし支援課に改名し、

より組合員・利用者のくらしに寄り添った商品提案・企画を充実させるとともに、営業体制を構築し、新規出店者・出品数の拡大を促進いたします。



「全農長野 僕らはおいしい応援団」はこちらから



おいしい日本と暮らそう
JAタウン



冬篇 CM ▶



秋篇 CM ▶



夏篇 CM ▶



長野駅デジタルサイネージで インバウンド向けに長野米PR

J A全農長野米穀課は、長野駅新幹線改札前のデジタルサイネージにインバウンド向け広告を掲出しています。



JR 長野駅の大型ビジョンで放映

掲出している広告は、米穀課で現在テレビ放送しているCMを英訳・再編集したもので、外国人の方々に生産者が真摯に米作りに向き合っている様子や、長野米の魅力を届けていきます。

2025年5月からは、長野米と日本酒にフォーカスした広告を同じく英訳して放映する予定です。豊かな自然に育まれた長野米から美味しい日本酒が出来上がるまでを表現しており、長野県にきた外国人観光客にぜひ長野のお米、日本酒を味わっていただきたいという想いで制作しております。長野駅を訪れた際には、是非ご覧ください。



5月から放映予定のCM

厚生連に福祉車両を 寄贈

J A全農長野は社会貢献活動の一環として、J A長野厚生連に福祉車両を寄贈しました。長野市のJ A長野県ビルで3月5日(水)に贈呈式を開き、全農長野の長谷川孝治県本部長が長野厚生連の洞和彦理事長に目録とゴルフデンキーを手渡しました(Ⅱ表紙左上)。

長谷川本部長は「地域医療を支えていただき感謝申し上げます。活動に役立てていただきたい」とあいさつしました。洞理事長は「コロナ禍中の衛生物品、今回の福祉車両と、毎年心遣いをいただき本当にありがたい。6台を一新して業務に励みたい」と感謝しました。



洞理事長(左)に目録を手渡す長谷川県本部長

福祉車両の寄贈は、2019年以来12回目です。今回の6台を合わせて87台になります。コロナ禍の4年間は衛生物品を寄贈していました。6台は、佐久総合病院、浅間南麓こもろ医療センター、長野松代総合病院、北信総合病院、鹿教湯三才山リハビリテーションセンター、南長野医療センター、篠ノ井総合病院で活用されます。

令和7年度 機構・分掌・要員について

I. 基本的な考え方

1. 中期3か年計画（令和7～9年度）に基づき、JA・県域および子会社の機能を最大限発揮し、各部門の事業競争力強化に取り組みとともに、JA経済事業の収支改善および農業所得の増大と地域の活性化に取り組む。

2. 部門間連携による生産提案と営農指導支援の機能発揮に取り組みとともに、農業DX化の推進による作業効率化、生産性の向上をすすめる。

3. 生産事業においては農業基盤維持のため、マーケットニーズに応じた生産提案をはじめ、気象災害・変動に対する品目提案、生産安定化対策に取り組む。信州産農畜産物の販売力強化と、適正な価格形成、資材コストの低減に取り組み、農家組合員の手取り最大化を目指す。生活事業は、生活支援や、ホームエネルギー事業、ライフライン確保の事業展開による事業構築を目指す。

4. 県本部総合経営管理の堅持ならびにコンプライアンス態勢の推進により、JAグループ全体の経営基盤確立をすすめる。県域結集の拡大と成果を得る県本部の運営を行なう。

II. 機構・分掌の主な変更内容

1. 第73回JA長野県大会第2号議案をうけた事業改革推進委員会の設置に伴い、総合企画部改革推進・企画課に、新たに「事業改革推進委員会対応」を分掌追加する。

2. 生産購買部における事業の効率的運営のため、生産資材課資材店舗グループを包装資材課に移管し、包装資材課は「農業資材課」に、生産資材課は「肥料農薬課」にそれぞれ改称する。青果物物流課題への対応のため、農業資材課の分掌に新たに「青果物物流改善に関する業務」を追加する。

3. 畜産酪農部は、食肉処理施設の移転・新設を円滑にすすめるため「専任部長（食肉処理施設対応）」を配置する。また、生産者の減少に伴う事業整理により「JA北信畜産酪農センター」を廃止する。

4. 生活支援「ライフライン確保」への取り組みを訴求するため、生活部は「くらし支援部」、生活課は「くらし支援課」にそれぞれ改称する。

人事異動

全農長野県本部（令和7年3月10日付）

《部長級》

▽管理部長 佐藤 剛

▽生産振興部長兼担い手推進センター長 敬三

▽生産販売部長 小林 博

▽畜産酪農部専任部長 壬生 親

▽くらし支援部長 飯島 貴彦

▽南信事業所長 大森 秀幸

▽北信事業所長 小林 靖則

▽名古屋販売事務所長 裕高

▽生産振興部付 和博

▽くらし支援部付 光俊

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽秀実

▽東信事業所次長兼生産販売課長 昌弘

▽南信事業所営農資材課 森田 陽一

▽中信事業所次長兼営農資材課長 相沢 光彦

▽北信事業所次長兼生産販売課長 岡村 隼人

▽北信事業所次長兼営農資材課長 飯澤 俊二

▽北信事業所次長兼生活課長 黒澤 雅俊

▽管理部付 島田 忠之

▽くらし支援部付 平澤 英人

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

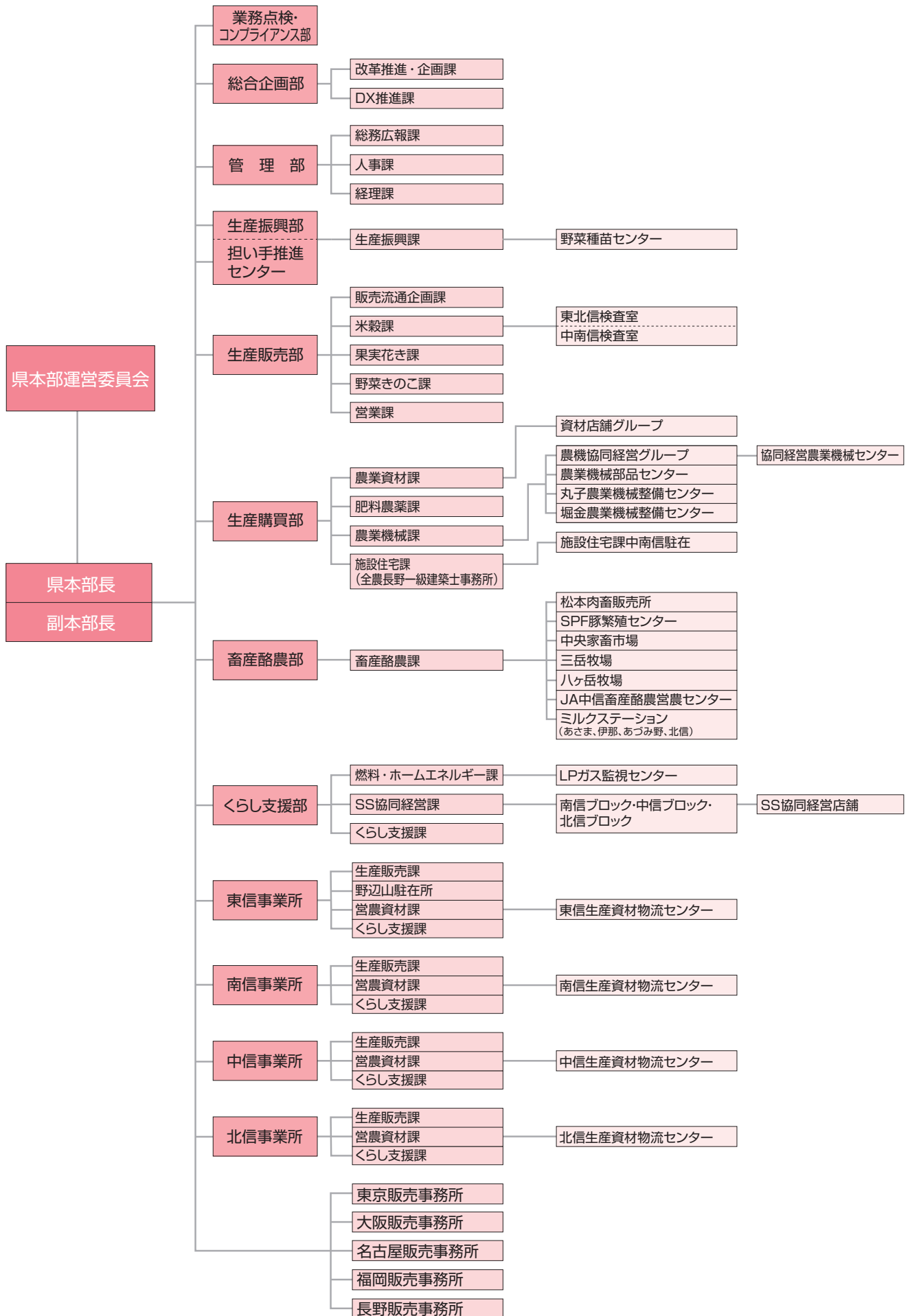
▽和也

▽和也

▽和也

▽和也

令和7年度 全農長野県本部機構図



JA全農長野の事業現況▶

令和6年度2月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実績	計画比	前年比
生産振興課		4	0	0
野菜種苗センター		153	90	100
生産振興部計		157	93	103
米	穀	19,752	121	125
果実花き		53,648	109	111
野菜きのこ		73,205	97	105
営業		14,571	94	105
生産販売部計		161,177	103	109
包装資材		8,390	97	102
生産資材		9,904	103	105
農業機械		5,493	102	110
施設住宅		4,607	114	67
生産購買部計		28,394	102	96
畜産酪農		29,594	104	100
三岳牧場		255	78	98
SPF繁殖センター		242	84	93
八ヶ岳牧場		282	100	113
畜産酪農部計		30,374	103	101
燃料・ホームエネルギー		25,478	97	102
SS協同経営		7,312	107	103
生活		7,173	102	86
生活部計		39,963	100	99
長野県本部計		259,940	103	105

(内部販売高含む)

4月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
4月23日(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんのずくせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	農業機械課

グリーンレーダー
X(旧ツイッター)はこちら▶



グリーンレーダー
WEB版はこちら▶



全農長野県本部も今まで培ってきた経験をともに、ブランド強化のため、テレビCMをはじめとする様々なメディアを活用し、積極的な情報発信に努めて参ります。地域営農経済事業の発展のため、共に新年度の目標に向けて改革や課題にも前向きに取り組を進めていきたいと思います。(一)

昨年に行われた改正「食料農業・農村基本法」の基本理念に盛り込まれた食料安全保障の確保に向けて、今後は生産現場で発生している様々な課題に丁寧に向き合い、二つ対処しながら前に進んでいきたいと思っています。

一方ではロシア・ウクライナ情勢などの長期化により、原油価格の高騰をはじめとする農産物の生産コストは高止まり傾向であり、自然災害の頻発・激甚化など農畜産物の営農環境は依然として厳しい状況が続いております。

信州の春の花々は、昨年の夏の暑さと今年の厳しい冬の寒さに耐えて育ち、春を迎えてそれぞれ美しい花を咲かせています。花には人の心を癒してくれる役割があります。花や緑を感じられる季節の中で新年度がはじまりました。新たな気持ちで物事に取り組み期待感と緊張感が引き締まる思いです。

ようやく暖かい日が続くようになりましたが、この冬は大寒波が到来し、県内では北信地域に降雪による被害が発生しました。雪害に遭われた農家・組合員の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

編集後記

今月のおすすめレシピ

Instagramレシピコンテストキャンペーン入賞レシピ

えのきの ペペロンチーノグラタン



■材料 (1人前)

- ・えのきたけ (200g入) 1パック
- ・ニンニク ひとかけ
- ・鷹の爪 少々
- ・オリーブオイル 大さじ1
- ・塩コショウ
- 長いも 100g
- 牛乳 100g
- みそ 大さじ1(写真は麴みそを使用)
- マヨネーズ 大さじ1
- ・チーズ ひとつかみ(約30g)

■作り方

- ①えのきは石づきを切り落としてほぐし、ニンニクは皮をむいて包丁で潰してからみじん切りにする
 - ②長いもの皮をむいてすりおろし、牛乳、みそ、マヨネーズをボウルに入れて混ぜる
 - ③スキレットにオリーブオイル大さじ1とニンニクを入れて火にかけて、香りが立ってきたらえのきを入れて炒める。塩コショウ、鷹の爪を入れて混ぜる。
 - ④③に②を流し入れてチーズを乗せ、オーブントースターでチーズに焦げ目がつくまで焼いたら出来上がり
- * お好みでネギや唐辛子を乗せてください

ワンポイント アドバイス

- * ホワイトソースに小麦粉を使わず、代わりに長いもで作っています。
- * ヘルシーなのにガツンとくる後味です。

グリーンリーダー4月号（毎月発行） 2025年3月20日発行
発行／JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 第551号
発行人／長谷川孝治 印刷／PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3

春には春の

JA全農長野です。



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA 全農長野ホームページ…………… <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JA タウン」…………… <https://www.ja-town.com>

